

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付け、地域での実践活動における素地を培う。

2. 事業の概要

（1）期日・対象

- ① 令和3年7月10日（土）～11日（日）1泊2日
- ② 令和3年7月17日（土）日帰り
全日程に参加できる県内の高校生（募集定員10名程度）

（2）参加者

- ① 6人
- ② 5人

（3）連携機関

吉備中央町地域おこし協力隊
備前市地域おこし協力隊
美作市地域おこし協力隊
山名音楽事務所
町営塾 Kii+
農家民宿「みっちゃん」
農家民宿「やまと」

（4）企画・運営のポイント

- ① 個別参加型で事業を企画し、県内すべての高等学校に開催要項・チラシを送付して県内全域からの参加を募った。送迎を行うことで高校生が無理なく参加できるようにした。
- ② 吉備の地域探究プログラムのテーマに「地域おこし」を設定し、地域の発展のために努力されている方を講師に招聘した。
- ③ 地域の活性化のために取り組んでいることや様々な工夫を参加者自らが体験することができるよう、農家民宿に宿泊し、翌日は農家民宿でフィールドワークを行った。農家民泊では、地元の特産物を使っての調理や農業体験が行われるように活動内容を工夫した。
- ④ 企画指導専門職2名と講師2名が、参加者とともに2つの農家民宿に宿泊し、参加者の体験活動や探究活動がスムーズに安全に展開できるように支援や助言を

行った。

- ⑤ 参加者に無理のない日程を組み、宿泊と日帰りで合宿を行うこととした。日帰りは、参加者の居住地に近い会場を準備して行うこととした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

①令和3年7月10日(土)～11日(日) 1泊2日

7月10日(土)		7月11日(日)	
9:15	受付	6:30	起床・洗面
9:30	開講式	7:00	朝食(民宿)
9:45	アイスブレイク	8:30	フィールドワーク「町おこしの取組を学ぶ」
10:30	ガイダンス		
	講義①「地域おこし協力隊の様々な活動」	11:30	国立吉備青少年自然の家へ移動
12:00	昼食(レストラン)	12:00	昼食(レストラン)
13:00	講義②「吉備中央町の実践事例発表」	13:00	講義・演習①「地域理解」
15:30	講義③「フィールドワークについて」	15:00	講義・演習②「課題解決の基礎」
16:30	演習①「農家民宿の取組について」	16:00	諸連絡
17:30	農家民宿へ移動	16:15	解散
18:00	夕食(自炊・共同調理)		
21:00	入浴		
22:00	就寝		

②令和3年7月17日(土) 日帰り 会場：ピュアリティまきび(岡山市)

7月17日(土)	
9:30	受付
9:45	諸連絡
10:00	グループワーク
13:00	昼食(参加者持参)
14:00	講義・演習③「行動計画の基礎」
15:00	講義・演習④「実践活動のためのガイダンス」
16:00	閉講式
16:15	解散

(2) 活動の状況

①令和3年7月10日(土)～11日(日)



【アイスブレイク】



【講義①「地域おこし協力隊の様々な活動」】



【講義②「吉備中央町の実践事例発表」】



【講義③「農家民宿の取組について」】



【自炊・共同調理】



【フィールドワーク:トマトの誘引】



【フィールドワーク:野菜の苗作り】



【フィールドワーク:トラクター体験】



【講義・演習①「地域理解」】



【講義・演習②「課題解決の基礎」】

②令和3年7月17日（土）



【講義・演習③「行動計画の基礎」】



【講義・演習③「行動計画の基礎」】



【講義・演習④「実践活動のためのガイダンス」】



【閉講式 修了証授与】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① それぞれジャンルの違うやり方で地域おこしをやっているのので聞いていて面白かったし、参考になった。
- ② 改めて民宿で体験したことや地域の状況について紙に書いてまとめると、その時は感じなかったことが思い出されて考えが深まった。

- ③ 農家の人がどんな生活をしているのかが知れた。近所の人たちみんな仲がよくてうらやましくなった。
- ④ 講師の皆さんに共通して、楽しんで取り組むことが大切だと話していて印象的だった。特に地域の人とのコミュニケーションを大切にしているステキだなと感じた。
- ⑤ 私の思う地域おこしとは何なのか考えさせられた。今まで地域にどのように貢献できるかを考えていて、この講義を聴いてすこし分かった気がしました。
- ⑥ ブルーベリー狩りや小学生以来のトマトの芽かぎや誘引はとても懐かしくて楽しかった。トラクター体験がとにかく最高だった。
- ⑦ 地域の問題点を挙げ、それらに対しての解決策を挙げている中で、自分にもできそうなことが出てきたので、自分も地域おこしに加わることができるんだと思えてうれしかった。

(3) 成果

- ① 町内の地域おこし協力隊に協力を依頼したことで、人の輪が広がり、たくさんの講師を招聘することができた。それぞれに活動しているジャンルが違うので、参加者に様々な視点から「地域おこし」を考える機会を提供できた。
- ② 町内で活動されている農家民宿経営者と連携・協力できたことで、参加者は地域おこしに関わる話を聞いただけでなく、宿泊体験、農業体験、収穫体験など地元ならではの体験をすることができた。
- ③ それぞれが参加申込みをする個別参加型なので、活動に興味を持つ意欲のある高校生を集めることができた。
- ④ ファシリテーションの仕方や講師選定、連携先を探す手法など、本事業に関わることで企画指導専門職のスキルが向上した。

(4) 今後の課題

- ① 当初は9人の参加希望があったが、コロナの影響で予定していた日程が延期となったことで参加者が減り、6人となった。また合宿初日で体調不良で1人早退し、合宿修了者は5人となった。試験期間や学校行事などの調査を行って延期日程を決定したが、人数が少なくなった。避けられないことではあったが日程の変更は最小限にしていきたい。
- ② 参加者は全員女子高生だった。吉備の職員が男性のため、宿泊に際しては地域おこし協力隊の女性講師に宿泊を依頼した。吉備の職員も男女のスタッフで対応できるようにしていきたい。
- ③ コロナの影響で予定されていた本事業が延期となり、他の事業の実施時期と重なったことで担当も重なり、勤務が連続する状況となった。ゆとりある運営のため、事業の実施時期や担当割りについて検討していく。
- ④ 参加した5名の内、4名が高校3年生で、夏休みではあったが受験勉強の関係で合宿後に実践活動に多くの時間が割けられなかった。またコロナの影響で、外

に出る活動や人と会う機会が制限されたことも実践活動ができなかった理由として挙げられた。3年生からは「高校2年生で参加できていればよかった。」との声も聞いており、1・2年生が参加できるように広報をしていきたい。

- ⑤ 合宿後の参加者への支援は、アドバイスを送ることにとどまった。実践活動報告書の提出は任意ではあるが、より多くの参加者が報告書を提出し、次のステージに進めるような支援の仕方について今後検討していきたい。
- ⑥ 県内全域からの参加を見込み、吉備までは送迎可能とし、日帰りの会場は県北と県南の会場を準備した。参加者の実態から日帰りは県南会場のみの実施となったが、会場の選定や送迎方法などは今後の検討事項となる。
- ⑦ 今年度より本格実施となった本事業ではあるが、年度途中にもファシリテーション・コーディネーション研修や担当者の打合会が数回あり、職員のスキルの向上や事業の実施については同時進行で進んだ感がある。担当する職員の割り当ても踏まえて、よりよい事業の実施について検討が必要である。

担当：主任企画指導専門職 乗本 雅彦